

兵庫保険医新聞

第2117号

2025年11月5日

発行所 兵庫県保険医協会

http://www.hhk.jp/

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1丁目2-31

神戸フコク生命海岸通ビル5F ☎078-393-1801

(1部350円送料共・年間購読料12,000円)

振替01190-1-2133

(会員の購読料は会費に含まれています)

第34回日常診療経験交流会

多職種が活発に交流

格差
縮小

「保険医の役割大きい」

健康格差をなくしていくために医療者は何ができるか。協会は10月26日、第34回日常診療経験交流会を協会会議室とオンライン併用で開催。分科会で医師・歯科医師・薬剤師・スタッフらが日常診療での経験を発表し、他科・多職種で交流を深めた。特別講演は「健康格差の縮小は可能か」をテーマとして、千葉大学名誉教授の近藤克則先生が講演した。会場に71人、オンラインで27人の計98人が参加した。

分科会は午前中に3会場で開催。医師・歯科医師のほか、薬剤師や歯科技工士、訪問看護師、理学療法士など多職種から18人が20演題を発表した。「CKD重症化予防を目指

「社会情報医療情報の入手経路」や「医療DXと薬局」などの演題が出され、活発な意見交換がなされた。

他にも、「PFAS運動の取り組み」や「日常診療で役立つ『やさしい日本語』」爆80年『Don't Bank on the Bomb』など、多彩なテーマで報告が行われた。

特別講演に立った近藤先生は2000年頃に過去の話と

戸市など多くの自治体の協力を得て、その実証研究を行ってきた。

生活習慣の改善ばかりが言

われるが、健康を損なう背景には環境・社会的要因がある

という認識が重要であり、国内でもWHOの総会決議に盛り込まれたことをきっかけに、医師会や厚労省も健康格差とその改善の重要性を徐々に認識するようになり、取り組みが進みつつあるとした。

そして、健康格差縮小のための「ゼロ次予防」の取り組みのヒントは地域コミュニティへの参加にあり、臨床に加え、コミュニケーション・社会保障制度を守る運動などの重層的・多面的介入で健康格差の小さい社会づくりは可能とし、保険医の果たす役割は大きいと締めくくった。

近藤克則 千葉大学名誉教授が講演



所得と要介護認定や認知症発症との関連を指摘し、医療者としての介入の必要性を指摘した近藤先生(上)



「緊急財政措置と診療報酬の大幅引き上げを求める」署名

署名が1000筆超に

まだの方は今すぐご協力を！

9月末以来、「今まで医療機関の努力と自己犠牲で何とか維持してきたがこれ以上は限界」「どの病院も瀕死の状態」などの一言とともに寄せられた署名数は10月27日までに1000筆を突破した。開業医に加え、神戸大学や兵庫医科大学、県立病院など、県内の大病院に所属の医師・歯科医師からも次々と多数署名が寄せられている。

署名は11月20日に政府・国会議員に提出予定。まだの方は上の二次元コードから簡単に署名いただけるので、ぜひご協力いただきたい。

紙の署名用紙のご注文は、☎078-393-1807まで

【オンライン署名はこちらから】



神戸支部第46回総会・記念企画

「依存症と共に生きる」患者支えよう

元TOKIOの山口達也氏・大谷夏実先生が講演

神戸支部は10月18日、県農業会館大ホールで、第46回支部総会・記念企画を開催。「依存症と共に生きる」をテーマとし、「アルコール依存と向き合う」について元TOKIOの山口達也氏、「日常診療で依存症かな?」といったらについて、長田区・にじハートクリニックの大谷夏実院長が講演した。会員・職員あわせ201人が参加した。大谷先生は、依存症は怠けている・意志が弱いと思われる



アルコール依存症当事者としての経験を具体的なエピソードをまじえて語る山口氏

神戸支部は10月18日、県農業会館大ホールで、第46回支部総会・記念企画を開催。「依存症と共に生きる」をテーマとし、「アルコール依存と向き合う」について元TOKIOの山口達也氏、「日常診療で依存症かな?」といったらについて、長田区・にじハートクリニックの大谷夏実院長が講演した。会員・職員あわせ201人が参加した。大谷先生は、依存症は怠けている・意志が弱いと思われる

がただ、自分の意志でやめることができない、慢性・進行性・致死性の脳の病気であると説明。大切なのは通院とともに自助グループなどの仲間との存在であり、医療者が依存症を正しく理解し専門医につなぐこと、寄り添い話を聞くことが重要と強調した。自身がアルコール依存症当事者である山口氏は、依存症になっていった経過と当時の思いを赤裸々に語った。オートバイによる飲酒事故を起こ

し、どん底の状況でやっと助けを求めることができ、自助グループにたどりつくことができたという。依存症は現在も治ったわけではなく「明日飲んでもしょうかもしない」という状況のなか講演活動は治療でもあるとして、自分と未来を変えるために努力を続けていくと語った。

参加者からは「山口達也氏の本人のリアルな体験・背景を知ることができて非常に興味深かった。アルコール依存症というものの怖さがよく分かった」(医師)、「依存症に対する考え方が間違っていることに気付くことができた」(看護師)、「大谷先生のお話は『依存症』についてとても分かりやすく医学的に理解できました」(事務)などの声が寄せられた。

兵庫県保険医協会第106回評議員会

臨時(決算)総会・第48回共済制度委員会

11月16日(日) 13時~17時30分 兵庫県保険医協会会議室

・13時~ 第106回評議員会 ・14時50分~ 臨時(決算)総会

・15時~ 第48回共済制度委員会

特別報告「日銀利上げ局面での金融市場見通しと新たな運用手法の潮流」

大樹生命保険株式会社 執行役員 山崎 亮氏

・16時10分~ 特別講演

「『社会的投資国家』に学ぶ 日本の戦略」

諸富 徹氏(京都大学公共政策大学院教授)(写真)



お申し込み・お問い合わせは、☎078-393-1817まで

燭心

スポーツの秋である。体力の衰えを痛感し3年前からテニスを再開した。古希を目前にして30年ぶりにスクールに入

病院の危機を 患者さんに知らせよう

クイズ&署名用紙を月刊保団連11月号(本号)に同封！

現在、長年の低医療費政策に加え物価上昇により、地域医療が危機に直面しています。誰もが必要なときに安心して医療を受けられる権利を守るため、国には早急な財政措置および次回改定での大幅な診療報酬アップ実現が求められています。

協会は患者・市民の方々にこの問題を知らせようと、「なくさないで！みんなの病院・医療」をテーマに企画したクイズと「地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持存続への支援を求める請願署名」に取り組みます。ぜひ住民・患者さんへの呼びかけをお願いします。

「なくさないで！みんなの病院・医療」クイズ

病院や診療所の倒産・廃業件数や医療機関経営の厳しさの原因をテーマとした〇×問題。ヒントを読むと正解がわかるようになっています。3問に答えると、全問正解者の中から100人に兵庫県グルメが当たります。

医療機関で患者さんに渡していただき、集めて協会事務所に返送ください。切手を貼らずに直接ポストに投函していただくことも可能です。また、ホームページからも応募可能です。実施期間は12月末まで。

「地域医療を守る」請願署名とあわせてお知らせください

「安心して医療にかかりたい」という声を政府に届けるため、クイズとあわせて「地域医療を守る」請願署名の協力も呼びかけてください。



署名用紙の注文、クイズ応募用紙等のグッズ等は☎078-393-1807まで

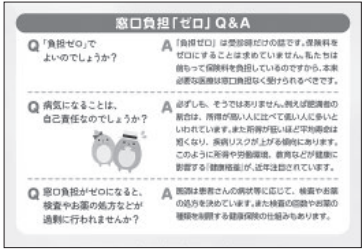
医療費の窓口負担 「ゼロの会」にご賛同を

本号同封リーフレットで

現在、医療の現場では、経済的な理由から受診を控える患者が少なくありません。高齢者や子ども、働き盛りの世代にまで広がる「受診控え」は、命と健康を揺るがしています。

こうした現状を変えようと、神奈川県保険医協会を

事務局として、医療費窓口負担「ゼロの会」が全国でよびかけを行っています。兵庫県もこの趣旨に賛同しオンラインイベントなどの取り組みを共催しています。このたび、会員のみならずにも賛同をお願いするリーフレットを今号に同封しました。



▲本号同封リーフレット

※追加注文など、お問い合わせ先は、☎078-393-1807まで。

病気は自己責任ではなく、誰にでも起こりうること。経済的事情によって受診をためらう社会では、健康格差が広がる一方で、医療の本来の役割である「必要なときに、誰もが、安心して受けられる医療」を取り戻すために、窓口負担の軽減は避けて通れません。

リーフレットに添付の「賛同はがき」に署名のうえ、ぜひ投函をお願いいたします。また、お知り合いの医師・ご友人への紹介も歓迎します。必要部数は無料でお送りしますので、お気軽に協会までご連絡ください。

みなで声をあげ、「お財布を気にせず受診できる医療」を実現していきましょう。

「令和6年能登半島地震 被災者の医療費の窓口負担免除、 本号同封 介護サービスの利用料免除の再開を求める署名」 にご協力ください

能登半島地震で半壊以上の被害等を受けた被災者には医療費の窓口負担や介護サービスの利用料が免除されていましたが、石川県内の国民健康保険および石川県後期高齢者医療広域連合では、財政負担などを理由に今年6月末をもって免除が打ち切られました。

このまま受診抑制や治療の中断が進めば、重症化や災害関連死の増加も懸念されます。また、介護サービスにおいても利用控えによる機能低下が危惧されます。

この現状を打開するために、石川県保険医協会などでつくる石川県社会保障推進協議会は石川県や国に令和6年能登半島地震の被災者に対する、国保および後期高齢者医療制度の医療費の窓口負担免除、介護サービスの利用料免除の再開等を求める署名に取り組んでいます。

署名用紙を月刊保団連11月号(本号)に同封しています。ぜひご協力をお願いします。



理事会 スポット

- ◇出席 26人
- ◇情勢 25年版「労働経済白書」で医療や福祉など社会インフラを支えるエッセンシャルワーカーの平均年収は他職種より約100万円低く、50代後半では差が200万円に広がること明らかになった。
- ◇医療運動対策 ①窓口負担「ゼロの会」の取り組みについて、神奈川県協会が作成したリーフレットを全会員に配布し、賛同を求めること、②「新・あつい壁」上映実行委員会からの依頼に応え、募金を執行し、会員に広報すること、③組織強化月間と共済普及対策 7790人(＋32人)の目標に対し、現勢が7763
- ◇出陣 26人
- ◇九条の会・兵庫県医師の会 「9条の心ネットワーク」会費の執行が了承され、②学習会企画「平和憲法と暮らしの危機の新段階」(11/22、講師・青井未帆学習院大学教授)の開催が報告された。
- ◇政策部 論文「世界一長寿国日本が示す持続可能な医療介護のモデル」の学術誌への投稿が報告された。
- ◇文化部 ①京都四条南座に行ってみよう！観劇ツアー「南座錦秋公演・上方喜劇まつり」(11/2、演目「一姫二太郎三かぼちゃ」)「お祭り提灯」出演・藤山直美ほか)に41人の申し込み等が報告された。(10月11日 理事会より)

歯科定例研究会

感想文 歯周治療の 最前線を学ぶ

歯科部会は、10月5日、協会会議室で定例研究会「歯周組織再生療法を成功に導くために」を開催。尼崎市・石川歯科医院の石川亮先生を講師に35人が参加した。大槻浩一先生の感想を紹介する。

特に、ブラークの増加が歯周病のディスプレイスを誘発する機序から、セルフケアによるブラークコントロールの極めて重要な役割を再認識いたしました。後半では、

ご高名な石川先生のご講演を拝聴いたしました。前半は、歯周病の病態把握(新分類・ステージ・グレード)、そして歯周治療のゴール設定(ポケット深さ4mm以下、BOP消失、骨縁下欠損および分岐部病変の非存在、咬合の安定)を中心に解説いた



歯周病の病態と治療ゴール、再生療法の進展を説明する石川先生

かつての切除療法から現在注目されている再生療法へと焦点を移し、その有効性と最新の治療戦略について深掘りいただきました。

①術式の変化に伴い、切開線の変遷があり、血餅保持ならびに審美的に有効な乳頭温存療法などが現在では選択されていること。

②適応症例の見極めは重要であるが、減張切開を必要とせず創部の完全閉鎖が可能なケースであれば、リグロス(FGF-2)は、保険診療内で行う歯周組織再生療法において有効な手段となり得ること。

どの内容も大変示唆に富んでおり、明日からの臨床に早速取り入れ、患者さんのより

会員訃報

- 富永 周作先生 8月9日 享年94歳 芦屋市 内小胃腸科
 - 白井 由理先生 9月28日 享年74歳 西区 内科
 - 柳田 一朗先生 10月18日 享年70歳 姫路市 皮形成外科
 - 久野 健一先生 10月18日 享年64歳 尼崎市 内消リハ科
- ご冥福をお祈り申し上げます

【準会員・歯科 大槻 浩一】

国際部／西宮・芦屋支部 市民公開講演会

日本におけるクルド人コミュニティと医療・ヘイト問題

日時 12月6日(土) 16時～17時30分 会場 協会会議室 + WEB配信
講師 日本クルド文化協会 ワッカス チョーラクさん
参加費 無料

川口市・蕨市では、2024年ごろから在日クルド人に対する差別が激化。参議院選挙では「外国人問題」が争点のように扱われ、ヘイトスピーチが繰り返されました。議会も外国人への偏見を助長させています。

クルド人コミュニティは、どのような環境にあるのか。トルコ南部出身のワッカス・チョーラクさんをお招きし、在日クルド人の生活やヘイト問題、医療へのアクセスの課題についてお話いただきます。

Zoom参加&来場お申し込みは、<https://bit.ly/m/4XY2BUI> または右の二次元コードよりお申し込みください。来場の申し込みは下記の電話からも可能です。

お問い合わせは、☎078-393-1840まで



審査対策部だより

個別指導では録音・弁護士帯同を

近年、県下の個別指導（医科）において、医療指導官・事務官によっては非常に高圧的・威圧的な態度や、保険医の人権侵害につながるような暴言など、不適切な個別指導の相談が協会に寄せられている。

個別指導は、「保険診療の取扱い、診療報酬の請求等に関する事項について周知徹底させること」を目的に、「懇切丁寧に行う」とされている（厚生省指導大綱）。また、行政手続法第32条では、個別指導を含む行政指導について、「相手方の任意の協力」のもとで行われるものであり、行政は「相手方が行政指導に従わなかったことを理由として、不利益な取扱いをしてはならない」と定めている。

指導大綱や行政手続法の趣旨から逸脱するような指導を未然に防ぎ、保険医の権利を守るためには、指導時の録音と弁護士帯同が重要である。録音・弁護士帯同により、指導結果に不利が生じることはなく、むしろ威圧的な態度を抑制し、不適切な言動があった場合にも萎縮することなく対応することが可能となる。

録音は、指導当日に「指導内容の確

認のため」と厚生局に断って録音することができる。指導が指導大綱に沿って適切に行われるために、個別指導時には必ず録音するようおすすめする。

弁護士帯同は、指導を受ける保険医が弁護士に委任し、委任状をあらかじめ厚生局に送付することで可能である。協会は、指導・監査の法的問題の検討や改善を提言してきた「保険診療法制研究会」と連携しており、希望があれば研究会所属の弁護士をご紹介します。

実施通知が届いた会員医療機関は、まずは協会までご連絡いただきたい。お問い合わせは、医科☎078－393－1840、歯科☎078－393－1809まで

兵庫県保険医協会
保険診療法制研究会作成

『医師・歯科医師のための
知っておきたい法律知識』

ご活用ください



ご注文は、
☎078－393－1840まで

本を紹介

反緊縮財政を学ぶために

最近、反緊縮財政派の経済学（のような）本を乱読した。その中から特に印象に残った書籍を紹介する。

まず、中野剛志氏の『どう

する財源』は、緊縮批判の立場から、政府支出や社会政策の「財源」をどのように考えるかを整理した一冊である。

次に、森永卓郎氏の『ザイム真理教』は、亡くなる直前まで精力的に発信していた著者が、財政均衡主義を「信仰」と捉え、鋭く批判したものである。読み物として面白い一方、やや扇動的な表現も見られる。その息子である森永康平氏の『国の借金は問

としない』って本当ですか？』は、国債について初心者向けに解説されており、父上より学問的で冷静だが主張は同様のような。さらに、以前当協会でも講演いただいた三橋貴明氏の『財政破綻論の嘘』では、破綻論を一つひとつ否定し、「国は破綻しない」と力強く主張している。詳細はユーチューブで確認できる。

財務省批判に関心がある向きには、高橋洋一氏の『財務省亡国論』が勧められる。著者は財務省が「増税ありき」で動き、自らの権益を守ろうとする現状を批判しつつ、国

債や借金の仕組みを分かりやすく解説している。平易で説得力のある一冊である。理論整理の面では、井上智洋氏の『MMT 現代貨幣理論とは何か』が参考になる。MMT（現代貨幣理論）の概要を整理し、日本での応用可能性や限界も解説しており、中立的で信頼性のある内容だ。ただし、MMT自体はまだ一般には異端扱いされることも多い。

最後に、私のような初心者でも理解しやすかったのは、中野明氏の『MMTのポイントがよくわかる本』である。経済学者ではない著者が、図表を使ってMMTの要点を初心者向けにまとめており、詳細論は少なめだが、すらすら読める入門書としてお勧めできる。

【明石市 西山 裕康】

選択的夫婦同姓

三田市・歯科 小寺 修

会
員
投
稿

この30年審議が前に進んでいない「選択的夫婦別姓」について高市総理は非常に慎重のようですが、日本の法制度では、現在「強制的夫婦同姓」です。このどこが問題かは、「夫婦同姓」ではなく、「強制的」が問題なんです。ですの

会
員
投
稿

セルフメディケーション

丹波市 眞田 幸昭

世界に誇る日本の皆保険制度が、少子高齢化と並行して、きしみ始めて久しい。年間総医療費が年々うなぎ上りに増え、2024年では48兆円を超えた。かつて、ヒラリー・クリントンが来日した折、日本の皆保険制度に感銘（？）して、アメリカにも取り入れようとしたが、残念ながら失敗に終わった。アメリカの医療制度を取り上げた、マイケル・ムーア監督の映画「シッコ」（2007）も懐かしく思い出される。

五十嵐中先生は、薬価や患者人数だけでなく、一人の患者が薬を使い続ける期間の3度かしく思い出される。

で「夫婦別姓」にする必要は全くないんです。主権が国民に存する日本国憲法下において、主権者でない国家に主権者である国民が強制される法律は、憲法違反ではないでしょうか？ 少なくとも憲法の趣旨に沿っていないと思います。

ですので、憲法の趣旨に沿えば、「選択的夫婦同姓」にすべきと考えます。そうです。同姓にするかどうかの判断は、主権者である国民に帰属すべきだと思います。そのためには、法整備が必要で、戸籍において根本の姓はそのままにして、家族個人名の項目に、選択する個人が、名のみではなく、その姓名を記載できるようにする。等の法改正をすれば、「選択的夫婦同姓」は可能ではないかと考えます。

会
員
投
稿

中国古典に学ぶ その9

明石市 永本 浩

「鷸蚌の争い」戦国策（中国前漢末 劉向編）「漁夫の利」 蚌が水辺で口を開けてのんびり日光浴をしている時、鷸（水辺に住む嘴の長い肉食の水鳥）が貝を食すするために嘴を入れたが、貝は殻を閉じ鳥の嘴を挟んだ。鷸曰く「今日不雨、明日不雨、即有死蚌」。（今日、明日に雨が降らなかつたらすぐに死ぬぞ）。蚌もまた言い返す「今日不出、明日不出、即有死鷸」（今日、明日出なかつたら死ぬぞ）。

両者は言い争った。（嘴を閉じたら喋れないと思うが、これは寓話（fable）であるからお許しを）。両者の言い争っている最中、漁夫が双方（鳥と貝）を捕獲した、何の苦勞もせず。今から2300年前、中国戦国時代「趙」と「燕」がお互いに争っている時、遊説家「蘇秦」の弟たる「蘇代」が

て、セルフメディケーションを推奨している。しかし、私はこの問題を解決するためには、医療保険と別枠の予算を拡大し、これら難病・特定疾患を個別にもれなく支援する制度に替えるべきだと考える。さらに、療養担当規則を改正し、同効剤の処方方を認めず、処方医は必ず処方しようとする薬剤の添付文書を読むよう義務付けるべきだし、多剤併用による未知の副作用にも配慮すべきである。

やり玉に挙がっている花粉症治療薬でも、抗アレルギー薬（わが国独特の呼称）つまり、抗ヒスタミン薬の2種類までの同時処方方を認めるようになったため、他の治療法を導入せず2剤服用されている症例を少なからず見かけた。また、がんが増加しているので、一朝一夕には効果はななくとも、例えば、発がん作用があると言われているPFAS Sに関する疫学的研究や、

「急がば回れ」で、その他の基礎研究をもっと支援すべきである。もちろん、多剤併用時の薬物動態の研究も重要である。

患者さんが自分の病気を心配して複数の医療機関をほしごする際、二重に投薬し、かつ、お薬手帳をそれぞれの医療機関が出しては意味がない。患者さんは、たくさんの方方薬の中で服用していないものがあっても、医師に気を遣って「服用していない」とは言えず、ごみ箱行きにしている場合も少なくない。現在のお薬手帳を有効活用し、セカンド・オピニオン制度をさらに充実することが望まれる。

このまま、政府がセルフメディケーションを押し進めたら、日本が有している数少ない世界一の座から保険医療制度が転落し、医療難民が出現することは、想像に難くない。

（2025・10・19）

オンライン勉強会「PFASって何だろう」

永遠の化学物質PFASについて、もっと知りましょう。

日時 12月7日(日) 19時～20時30分
講師 京都大学名誉教授 小泉 昭夫 先生
場所 Zoom配信 ※丹波市・ゆめタウン内市民プラザ2階会議室にて大型画面による共同視聴も可能（参加費無料）
申込方法 12月5日(金) までにメールplagomi@mbr.nifty.comまで送信
主催 丹波アレルギー研究所

（註）専門医に聞く⑤ 五十嵐中 朝日新聞医療サイトアピタル 2025・10・12 ※PFASに関するオンライン勉強会を左記の通り、開催予定です。ご参加お待ちしております。

両国が争っていると、大国「秦（漁師）」に両者「鳥と貝」（趙と燕）が漁夫の利により亡ぼされると説得した。翻って今日の世界情勢を鑑みると「貝」をウクライナ、「鳥」をロシアに見立てられる。

「蚌」たるウクライナはソビエト連邦の柵、軛から開放されて太平の世であったかもしれない。ところが突如「鷸」（ロシア）が、最も気候温暖、資源豊富な「貝の肉」の如き場所（ウクライナ）へ攻めて来て嘴を突っ込んだのがウクライナ戦争だ。両者（国）互いに譲らず、長期戦となりつつある。ここで気になるのが「漁夫

の利」を得る国である。それは中国だ。ウクライナもロシアも長引く戦争でヘトヘトであらう。しかしロシアは資源大国。石油、天然ガスを中国へ売れば戦費を調達できる。トランプ米大統領は中国からの関税を上げると警告すれど中露は陸続き、いくらでも隠れて安く石油を購入できる。中露の関係は複雑だが、現在、米国にとっての最大のライバルは中国である。すでに購買力平価では中国のGDPは米国を越えているという統計データもある。歴史的に人類史上最大の国家は中華帝国であった。真に「殷鑑遠からず」（詩経）であろう。

